

**山陽オイル、バイオ燃料30%混焼開始。広島湾の給油船、CO2削減 加速**

最新バンカリング船「ぐろーばる6」

船主で船用燃料供給を手掛ける**山陽オイル**(本社・広島市)は今月中旬、広島湾のバンカリング(燃料供給)船で使用する燃料油中のバイオディーゼル燃料混合率を30%に引き上げた。同船は4月から混合率7%でバイオ燃料使用を開始していたが、さらなるCO2(二酸化炭素)排出削減を目的に混合率の引き上げを決断。今後1年間のトライアル航海を重ねて環境負荷低減効果を確認し、内航分野の低・脱炭素化へのさらなる貢献を図る。

今回のトライアル対象船は、4月下旬に小池造船海運(広島県)で竣工した最新バンカリング船「ぐろーばる6」(エンジン出力508馬力)。就航時からA重油に7%のバイオ燃料の混合を続けてきたが、11日から混合率を30%に引き上げた。

14日にはヤンマーの協力を得て30%混焼時の排ガスを測定。十分なCO2削減効果とともに、バイオ燃料の課題となるNOx(窒素酸化物)排出量がA重油100%使用の同型船と同レベルに抑制されていることを確認した。

使用するバイオ燃料は、軽油代替燃料を開発・販売するレボインターナショナル(京都市)が供給。使用済み食用油をリサイクルしたバイオディーゼル燃料を活用している。

**山陽オイル**関係者は「バイオ燃料の混合使用にはコストや手間がかかるが、当社独自のSDGs(持続可能な開発目標)への取り組みとしてCO2削減に力を注いでいく」と意義を語る。

**山陽オイル**は広島湾でバンカリング船4隻を運航し、大型外航船や内航船に船舶燃料を供給。船主事業では外航船のハンディサイズバルカー3隻を保有している。